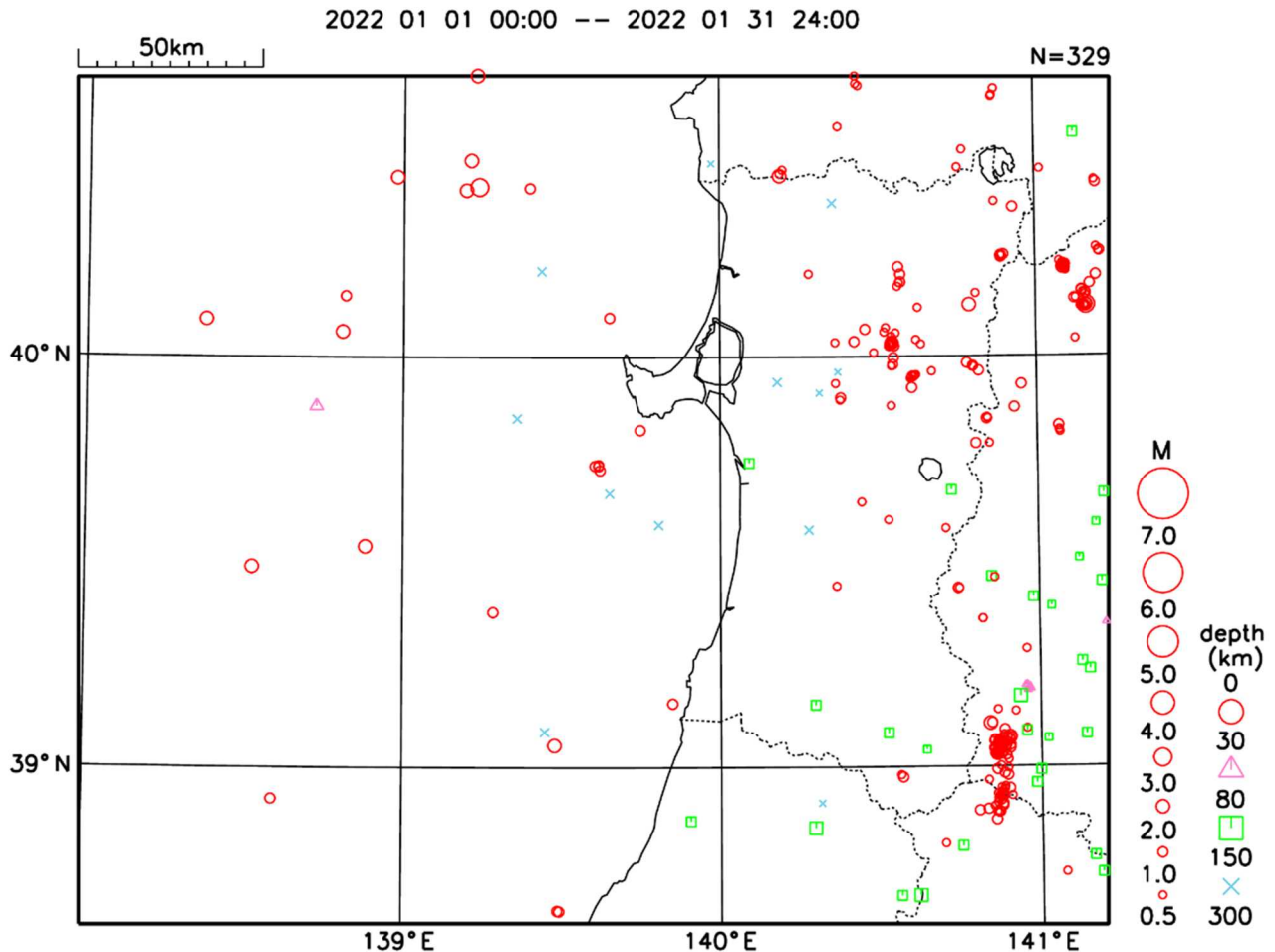


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2022年1月

【震央分布図】



〈1月の地震概況〉

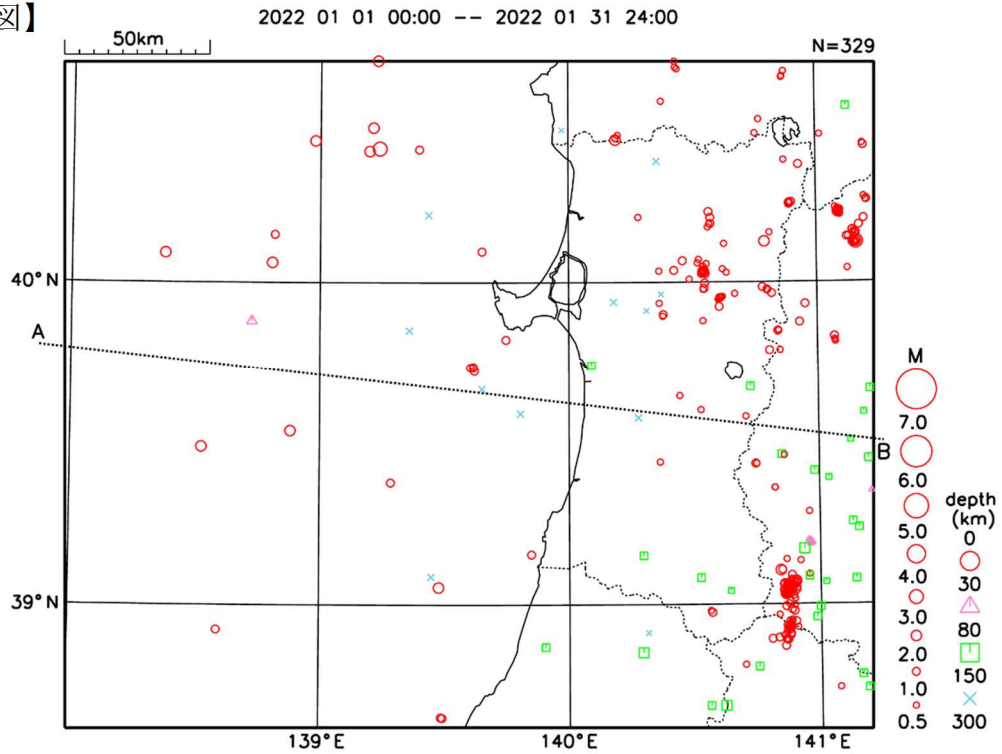
この期間、秋田県とその周辺を震源とする地震は329回発生した。県内で震度1以上を観測した地震はなかった。

秋田県内の震度観測点（85地点）で、1ヶ月間震度1以上を観測した地震がなかったのは、2020年6月以来である。

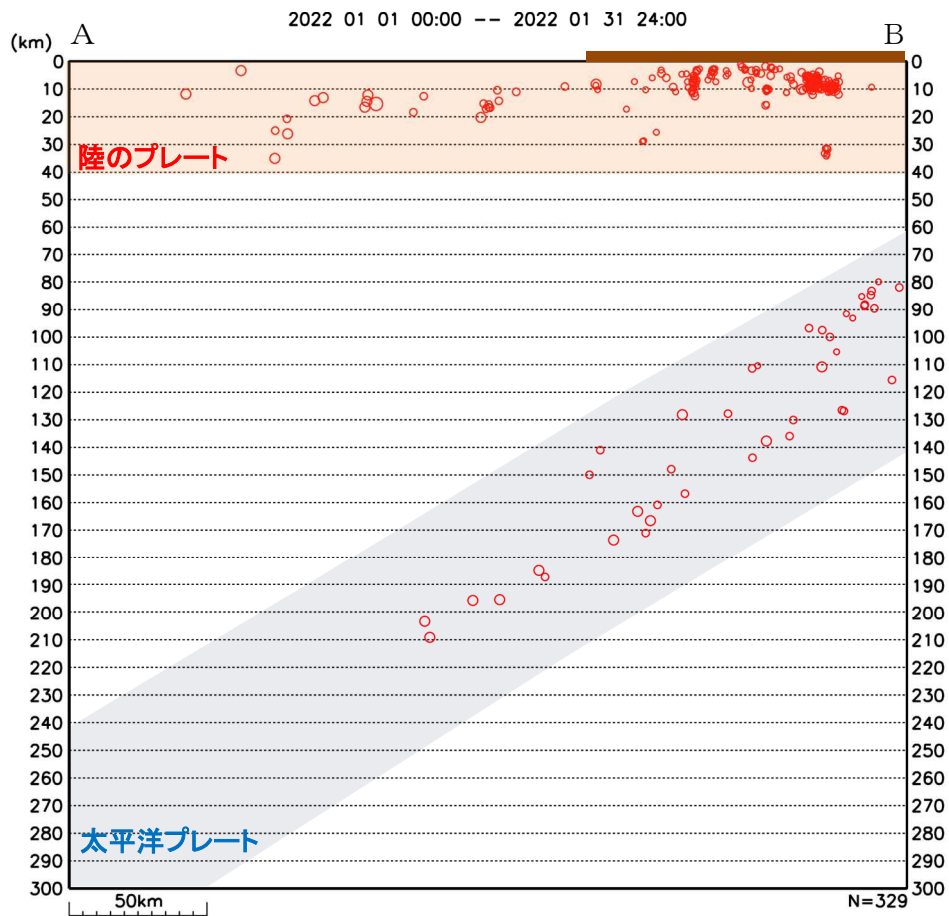
2022年1月15日13時頃（日本時間）にトンガ諸島付近のフンガ・トンガ-フンガ・ハアパイ火山で大規模噴火が発生し、日本国内において、この大規模噴火によるものとみられる潮位変化が観測された。

この潮位変化は地震に伴う通常の津波とは異なるものであったが、気象庁は津波警報等の仕組みを用いて、防災対応を呼びかけた。この潮位変化は、津波の高さの測定方法で測ると鹿児島県の奄美市小湊で134cmを観測したほか、太平洋側を中心に日本国内の多数の潮位観測点で観測された。秋田県では、16日04時07分に津波予報（若干の海面変動）を発表し、秋田で11cm（暫定値）の潮位変化を観測した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ —— は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

「秋田県月間地震概況」利用の手引き

防災メモ

「秋田県月間地震概況」(以下、地震概況)は、1ヶ月間の地震活動状況を「震央分布図」、「地震概況」、「断面図」、「秋田県で震度1以上を観測した地震の表」の各項目で記し、最後に地震や津波、火山などに関する解説や、気象庁で行っている業務等を簡潔に紹介する「防災メモ」を加えた資料です。最近2年間の地震概況は、秋田地方気象台のホームページで公表しています。

【震央分布図および概況】

震央とは、震源の真上にあたる地表に投影した点のことで、震源要素別に震央をプロットした図を震央分布図といいます。個々の地震の震源要素は、地図上のシンボルマークの位置により震央の位置を、大きさにより「地震の規模(マグニチュード:以下、M)」を、色・形により「震源の深さ」をそれぞれ表しています。この図から地震の空間的分布、活動の状況(発生場所・発生頻度)などを見ることができます。

概況では秋田県内で震度1以上を観測した地震や注目した地震について概略を説明し、震央分布図のシンボルマークに発生日時と震源の深さ、Mを記入します。また、特徴的な地震活動等には印(図中aのように)を付け、概況欄で説明します。

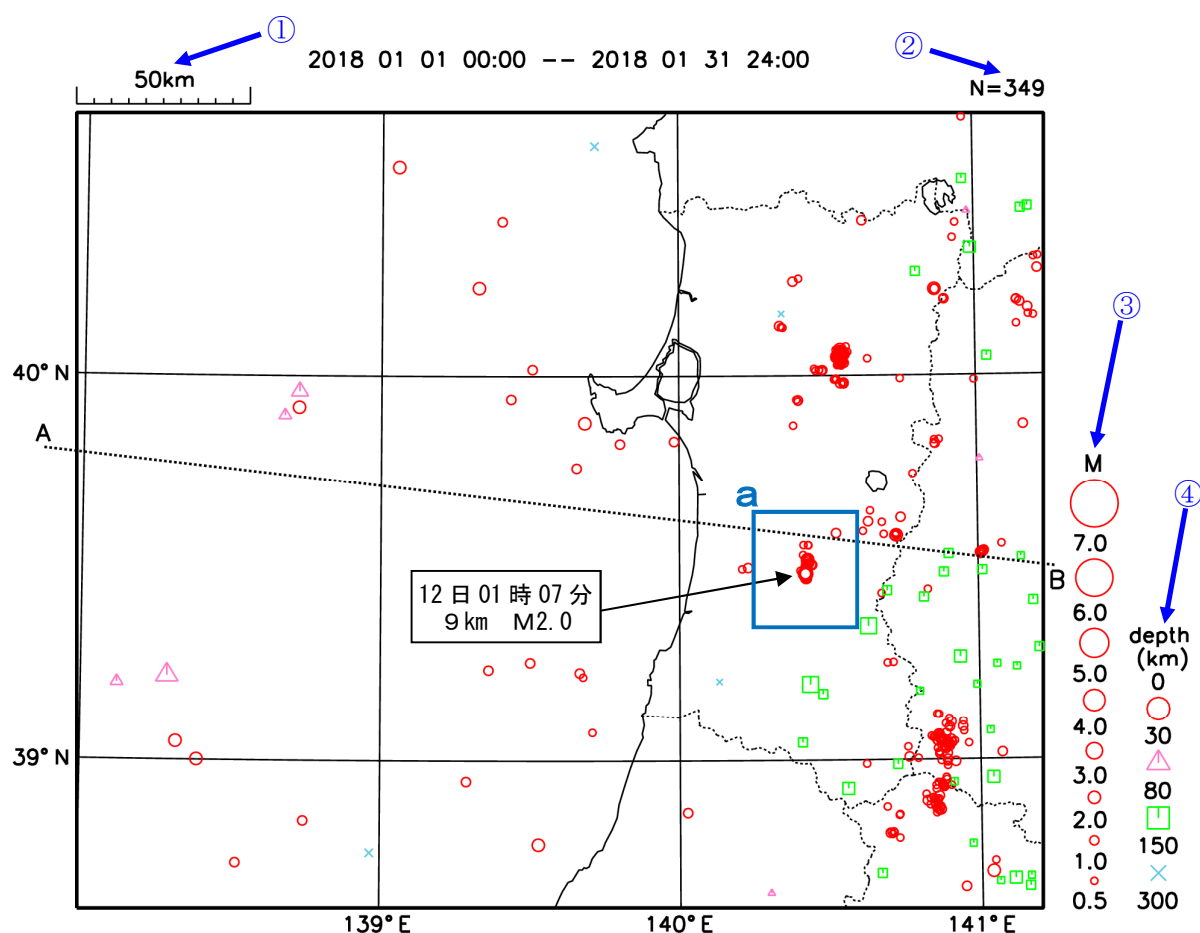


図1 震央分布図

- ① 地図の縮尺に合わせたスケール
 - ② 図にプロットしている地震の数
 - ③ シンボルマークの大きさは、Mの大きさ
 - ④ シンボルマークの色・形は震源の深さ(単位、km)を表わす
- 0 ≤ ○ < 30 30 ≤ △ < 80 80 ≤ □ < 150 150 ≤ × ≤ 300

【断面図】

震央分布図で表示した範囲を、A点とB点の結線を断面として震源の深さの分布を投影した図が断面図です。投影面を単純に東西方向ではなく、斜めにしているのは太平洋プレートが陸のプレートの下に沈み込んでいく方向に沿うように設定しているためです。

断面図は、縦軸で地表を0kmとした震源の深さ、シンボルマーク（○）の大きさとMを表わしています。下の例では断面図の震源分布から太平洋プレートの沈み込みに沿って地震が発生している様子や、沈み込んでいく過程で震源の分布が2列になっている様子（二重地震面と呼ばれる）が明瞭に表示されています。

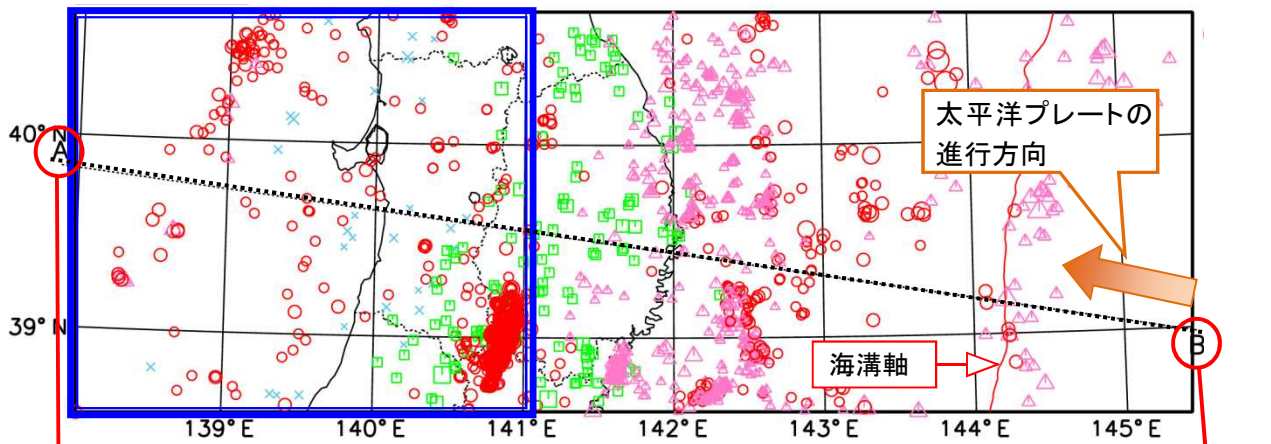


図2 震央分布図 地震概況には左側の青枠内の領域を表示している

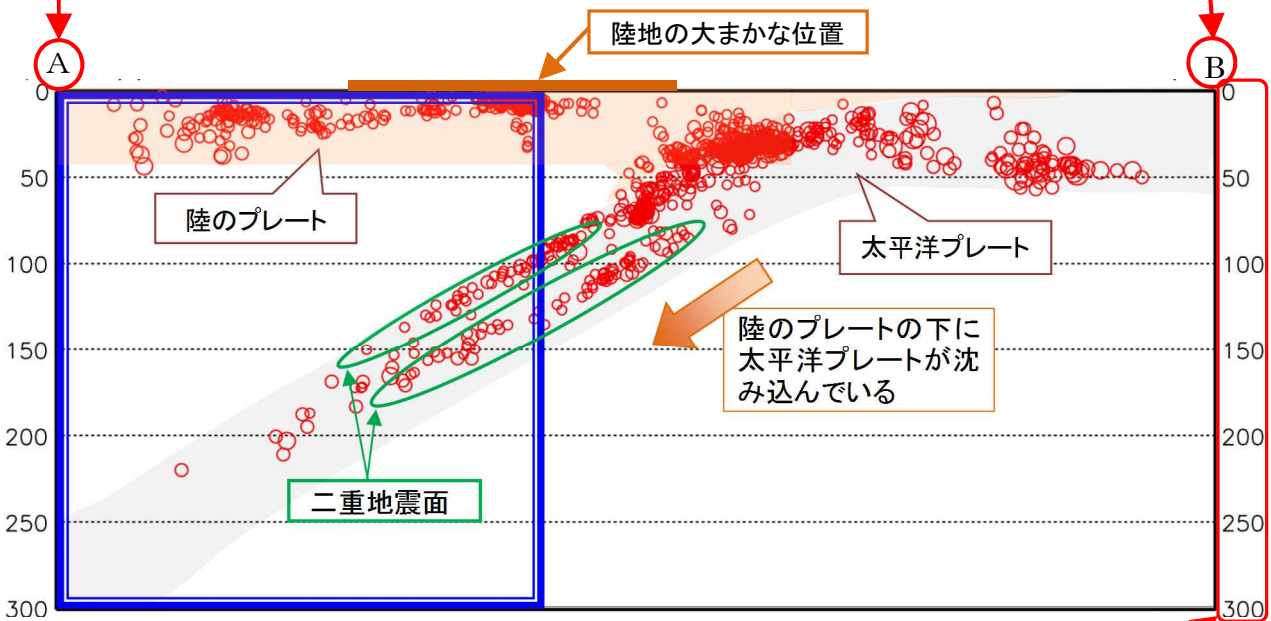


図3 断面図 図2の直線 A-B を断面として投影した図
地震概況には、左側の青枠内の領域を表示している

深さ: 0~300km

【秋田県で震度1以上を観測した地震の表】

秋田県内の震度観測点（85 地点）で、震度1以上を観測した地震の一覧表です。地震が発生した時刻、震央地名、震源の緯度・経度、深さ、Mおよび観測された震度と観測地点名を表記しています。

【防災メモ】

地震、津波、火山の防災に関する知識について掲載します。また、気象庁の地震、津波、火山業務などに変更があった場合などはその内容について解説、お知らせします。